

冬季の水道管の凍結防止について

一段と寒さが厳しくなる12月から2月下旬頃までは、水道管や蛇口などの給水装置の凍結が多くなる時期です。外の気温がマイナス4度以下になったときや真冬日が続くとき、またマイナス4度に達しなくとも風の強いときは要注意です。また、家中でも、北側の風が当りやすい場所にある水道が凍結しやすいようです。なお、旅行などで家を留守にするときや、長期間水道を使用しない場合、空き家・空き部屋をお持ちの場合は、凍結・破裂させないためにもしっかりと水抜きをしておきましょう。

凍結すると、水が出なくなるのはもちろんのこと、解氷作業や水道管の破裂修理に高い費用がかかります。また、ボイラーや湯沸器などが凍結した場合、器具の故障の原因になるほか、アパートで水道管が破裂した場合は流れ出た水により、下の階の入居者にまで迷惑をかける恐れがあります。

水道冬じたくの4つのポイント

①水抜き栓をしっかりと！

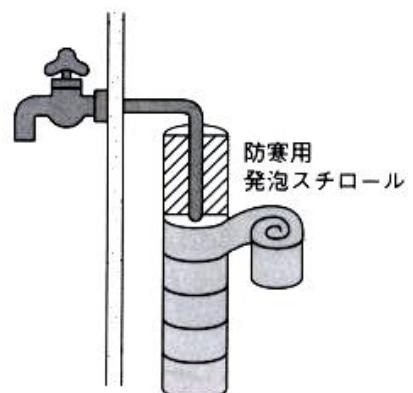
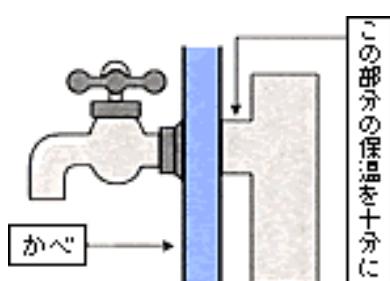
水を出した状態で水抜き栓のハンドルを完全に閉めます。水抜き栓のハンドルの開け閉めは完全に行いましょう。中途半端な操作は漏水の原因となり、水道料金に反映されます。水抜き栓の操作方法については、下記の「水抜き栓の操作方法」をご覧ください。

②温水器や湯沸器、ボイラーの水抜きを忘れずに！

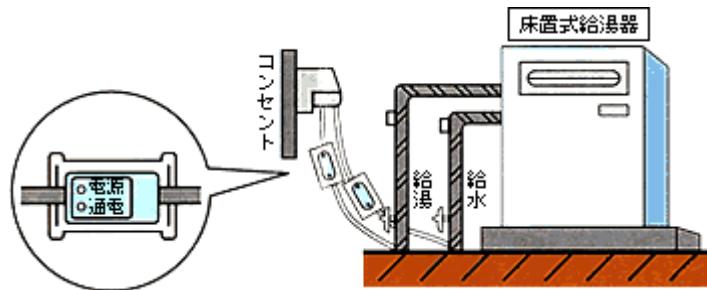
詳しい水抜き方法は、お使いの器具の取扱説明書をご覧になるか、メーカーにお問い合わせください。

③露出している水道管は要注意！水道管に保温材を巻きましょう。

保温材（布きれ・発泡スチロールなど）で覆い、濡れないようにその上からビニールテープを巻きましょう。

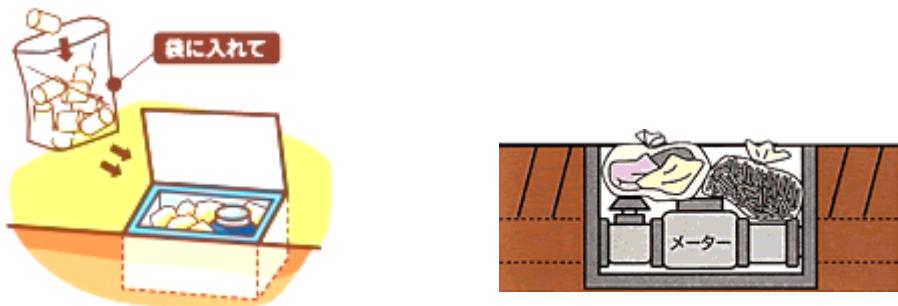


また、給湯器に加温式（電熱式）凍結防止器が取り付けられている場合、コンセントプラグがコンセントに差し込まれているか確認してください。コンセントに差し込んでも電源ランプが点灯しない場合は、断線している恐れがあります。



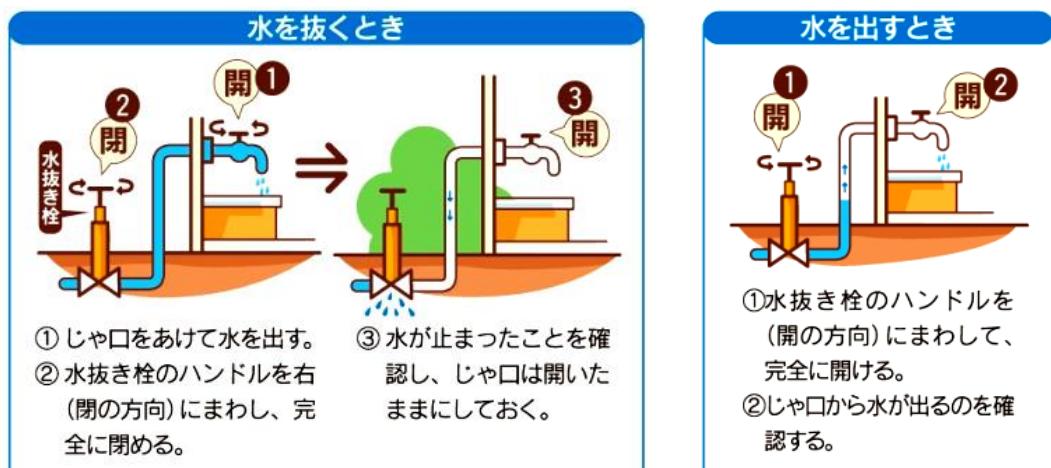
④メーターBOXに保温材を入れましょう！

保温材（発泡スチロール等）を細かく砕いて濡れないようにビニール袋に入れ、メーターを覆うように詰めましょう。（メーター検針が容易に出来るようにしてください）



水抜き栓の操作方法

水抜き栓の設置場所は、建物によって異なりますが、メーターBOX内・蛇口の手前に多いようです。アパートや借家で水抜き栓の場所がわからない場合は、管理人や所有者へお問い合わせください。



注意：水抜き栓を開閉栓後、必ずメーター器のパイロットが回転していないか確認をしてください。回転している場合は、水抜き栓が中途半端な状態になっていますので、しっかりと最後まで閉めて（開けて）ください。水抜き栓の中途半端な操作は漏水の原因となり、水道料金に反映されます。

パイロット
水抜き栓の中途半端な操作
だと回転します。



注意：水抜き栓の操作自体が出来ない場合は、町指定給水装置工事事業者へ修理を依頼してください。その場合、修理費はお客様のご負担となりますので町指定給水装置工事事業者へ費用の確認をおこなってください。

もし凍結してしまったときは・・・？

◎軽い凍結の場合

・立ち上がり管の場合

蛇口を開放状態にし、防寒水栓柱の外ぶたと保温用の発泡スチロールをはずし、立ち上り管に直接お湯をくり返しかけて溶かします。

注意：熱湯を急に管にかけると管自体が破損する恐れがあるので注意しましょう。



・蛇口の場合

蛇口を開放状態にしてタオル等をかぶせて、その上からゆっくり熱めのお湯（約70度～80度）を繰り返しかけて溶かします。（タオルをかぶせるのは、お湯の余熱を利用するためです。）

また、部屋全体を暖かくし、ヘアドライヤーの熱風をかけ、同時に部屋全体を暖めるとより効果的です。



注意：蛇口を閉めたままで急にお湯をかけると蛇口のパッキンが破損する恐れがあるので注意しましょう。また、ドライヤー等のスイッチを入れたままで、その場を離れないでください。火災の恐れがあります。

◎上記の方法で凍結が解けない場合

町指定給水装置工事事業者へ解氷を依頼してください。※1、※2

◎凍結で破裂による漏水が生じた場合

水の漏れている部分より手前の水抜き栓を閉めると、水を止めることができます。水抜き栓がない場合、または故障しているときは、すぐに町指定給水装置工事事業者へ修理を依頼してください。※1、※2

※1：作業は有料でお客様負担になります。費用は業者へお問い合わせください。

※2：アパートや借家に住んでいる方は、管理人や大家さんへ連絡のうえ依頼してください。

冬の間、長期間留守にされる方、空き家・空き部屋をお持ちの方へ

空き家・空き部屋をお持ちの場合、また旅行などで長期にわたって不在の場合、蛇口の立ち上がりやボイラー等が凍結し破裂する恐れがあります。水抜き栓で水を抜いて凍結防止を心がけましょう。また、長期不在の場合は、上下水道事業所に「中止届」を提出してください。